

# 生徒の意欲を引き出し学力を付ける家庭学習

本県における学習習慣形成の課題解消に向けて本年度中に取り組むべきこととして、県教委指導主事の中学校訪問から見てきた「短期の点検サイクル」と「意欲を引き出す評価」に焦点化し、そのポイントと具体的な取組例を紹介しています。ぜひ、3学期からの各校の取組の参考にしてください。

## 1 岡山県の現状と課題

■学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む。）

1時間以上学習する生徒の割合が全国で最も少なく、小学校で培った学習習慣が中学校進学後に崩れている。

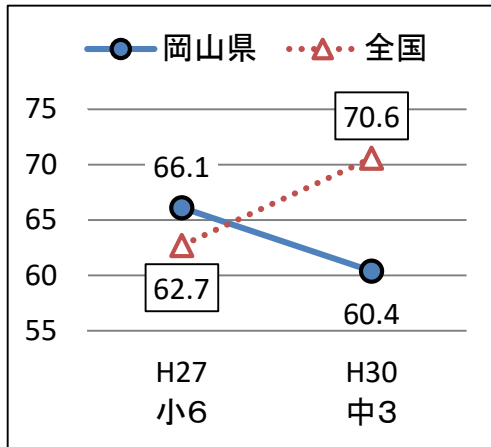


図1 1時間以上割合の経年変化

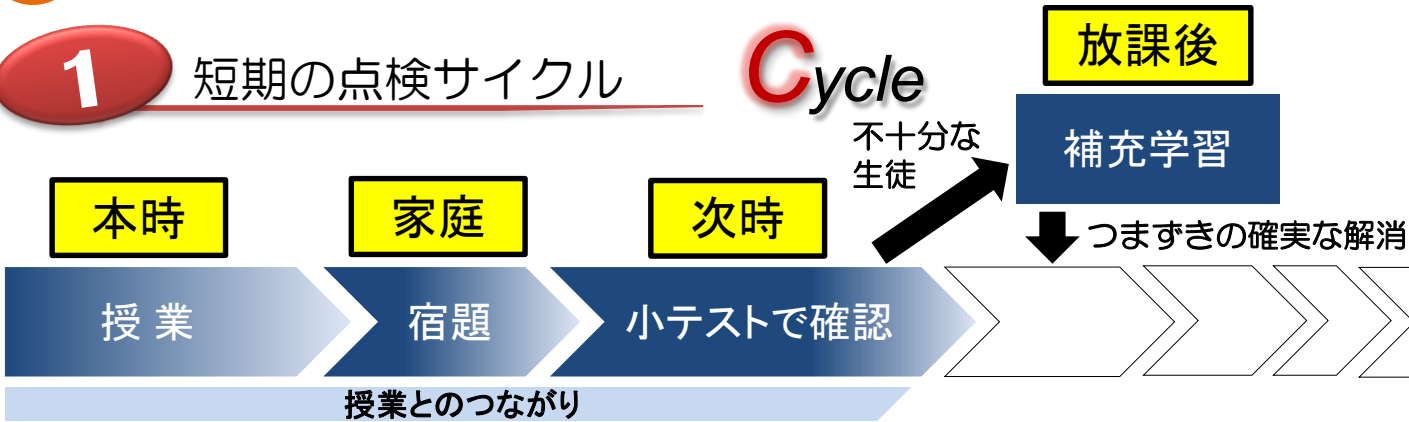
### 課題

- ◆授業と宿題の連携が不十分なため、生徒が家庭学習に取り組む価値を見いだせていない。  
※授業内容の定着具合を確認するサイクルが長く（定期考査等）、毎時間の授業において、生徒が「取り組んで良かった」と実感できる場面が少ない。
- ◆点検・評価で生徒の学習意欲を引き出せていない。  
※生徒は宿題を提出することが第一義と捉えており、家庭学習で努力したこと等を肯定的に評価されることが少ないため、作業的な取組に留まっている。

**本年度中にやるべきことがある!!**

## 2 今すぐやる「2つ」のこと

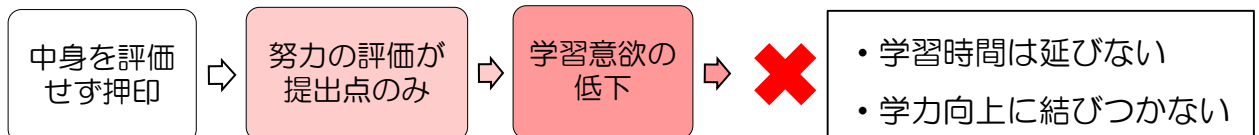
### 1 短期の点検サイクル



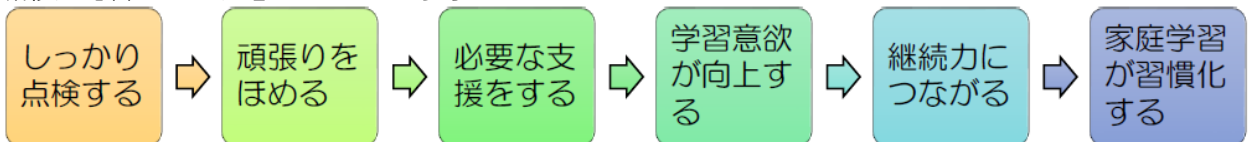
### 2 意欲を引き出す評価

### Feedback

点検が押印のみで返却していると・・・



「点検・評価の工夫」をしっかりとすることによって・・・



# 1 2種類の点検サイクル Cycle

## 総社中学校の取組より

## 学校全体で取り組む補充学習

授業ごとのつまずきの把握と解消という短いサイクルに加えて、1週間で課題に取り組ませるサイクルを取り入れることによって、基礎学力の確実な定着と計画的な学習習慣の確立を図っています。

### 毎時間のサイクル

補充学習の参加基準が、「小テストで合格点を満たさなかった」「宿題・課題を期限までに提出しなかった」など、明確に定められており、部活動よりも勉強を優先させる指導を行うことを全教職員で共通理解できているため、生徒は納得の上で参加します。

合格基準を満たせば部活動に参加できるため、時間の経過とともに、必然的に合格基準に満たない生徒への指導が手厚くなり、結果としてつまずき解消につながっています。



時間の経過とともに



### 1週間のサイクル

週末課題に学校全体で取り組ませるとともに、生徒の学習時間を把握することで、課題量の適正化を図っています。

また、学習係が毎授業終了直後に、学級設置の「宿題ボード」に記入することで、二重のチェックをしています。

生徒自身に課題の内容と量を的確に把握させることで、主体的・計画的に家庭学習に取り組ませるとともに、できなければ補充をして、やり切らせる取組が徹底されています。

#### 週末課題の1週間の流れ

木	教科担任	課題名・提出日等を共有フォルダ内の一覧表に入力
金	印刷担当者	一覧表を印刷・配付準備
土・日	生徒	学習時間を一覧表に記入
月	担任	一覧表を回収 ※課題は指定された期日・方法で提出
月・火	集計担当者	学習時間と提出者数を集計
学力向上担当者	集計結果を各学年団に回覧	
教科担任	課題量の調整	
学年団	生徒への働きかけと補充学習	

### 学校全体で、

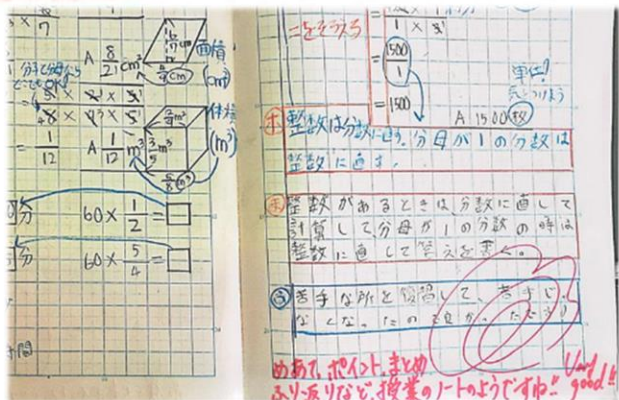
- ・ 役割分担を明確にし、負担を軽減
- ・ 部活動より補充優先を共通理解

# 2 意欲を引き出す評価

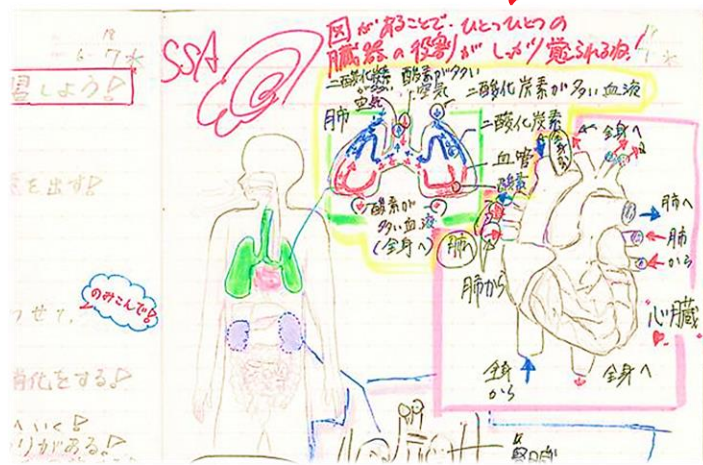
# Feedback

小学校の先生は、コメントで努力や成長を認めています。

図を使ったことにより、何が良かったかを具体的に認めている。



授業と同様に、めあてや振り返りを書いて自分なりにまとめていることを認めている。



宿題（課題）を課す場合、ドリル型だけでなく、習熟度に応じた課題や、多様な考えや工夫を引き出しやすい課題の設定が有効です。さらに、課題解決に向けた具体的な道筋を提示することが、生徒が取り組みやすい環境づくりにつながります。また、生徒の「努力」「成長」「工夫」「発想」など頑張りに応じた具体的なコメントは、学習意欲を高め、継続する力となります。

良い取組は、授業で取り上げたり、掲示したりすることで更に効果が高まります。